



より効果的にエゾシカを捕獲する新手法の開発

産業技術環境研究本部

背景・目的

- ・道内ではエゾシカの増加により、甚大な農林業被害が発生しており、森林生態系に及ぼす影響も著しい。
- ・エゾシカの主要な生息地である森林において、林業被害や生態系への悪影響を軽減するために、効果的な捕獲が求められている。
- ・森林被害やエゾシカの生息密度を簡便に把握する手法、捕獲適地を効果的に抽出する手法とともに、捕獲効率の高いワナの開発を目指した。



エゾシカに樹皮を剥かれ枯死した樹木

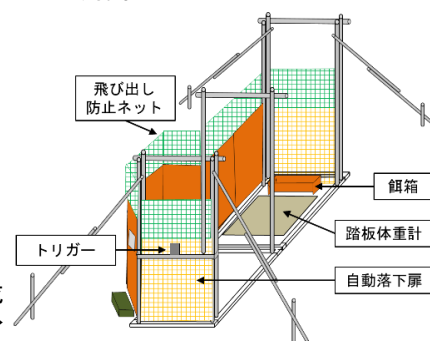
成果

エゾシカの被害評価・生息密度把握・捕獲の新たな手法と、捕獲効率の高い新型ワナを開発

- ・植物の食痕などから、エゾシカによる被害の程度を評価し、森林における対策の必要性を判断する手法を開発した。
- ・自動撮影カメラによりエゾシカの生息密度の増減傾向を把握する手法や、地理情報システムを用いて捕獲適地を選定する手法を確立した。
- ・移設が容易で捕獲効率が高い、低コスト・省電力な小型の囲いワナ（幅2m×長さ4m×高さ2.7m）を開発・製品化した。
- ・研究成果を基に「森林管理者のためのエゾシカ調査の手引き」と「森林管理者のためのエゾシカ捕獲の手引き」を作成した。



自動撮影カメラ 撮影されたシカの群れ



開発した小型囲いワナの構成
※右側の壁を外して表示しています →

成果の活用

手引きや研修会を通じて森林管理者へ対策手法を普及、ワナも商品化され普及が進む

- ・本研究の成果は、森林管理者〔市町村、道、国（北海道森林管理局）〕や環境省が行う調査のほか、捕獲事業、人材育成事業で活用されている。
- ・「北海道エゾシカ管理計画」に基づく、捕獲目標の達成、被害軽減にも寄与している。
- ・開発したワナは平成29年（2017年）に商品化され、多数普及している。



捕獲技術研修会



小型囲いワナの説明会

<関連論文・特許など>

- 【1】Uno, H. et al. (2017), Estimation of population density for sika deer (*Cervus nippon*) using distance sampling in the forested habitats of Hokkaido, Japan. *Mammal Study*, 42:p57-64.
- 【2】野生動物捕獲装置, 特許 第6471384号

